



今回は秋田県の生涯学習関連団体の活動を紹介します

## 秋田県生涯学習インストラクターの会の活動について

秋田県生涯学習インストラクターの会 会長 佐藤 信雄

平成19年に、社会通信教育講座で取得した文部科学省認定の「生涯学習インストラクター」の有資格者で結成した会も、6年目を迎えました。今回は、日頃の活動の中で受講者に好評を得ている「孫育て学習会」、「くすりの話講演会」、「庭木の手入れ勉強会」について紹介します。



「孫育て学習会」は秋田市子ども未来センターの金田昭三さんを講師にお願いし、祖父母を対象に、孫との関わり方についての学習会として、全県の公民館や幼稚園、老人施設等を巡回しています。児童文化研究者である金田さんは、子どもの発育過程の話や、折り紙や広告紙などを利用した楽しいあそび、いい絵本の選び方など親に代わって祖父母が孫を見守る場合のお話を楽しく伝えてくれています。すでに全県の各地域10か所近くを回り、50人以上の参加者を集め、多くの関係者の方々から好評をいただき、マスコミにも取り上げられました。

「くすりの話講演会」は、元秋田赤十字病院薬剤部長の佐々木吉幸先生を講師に、日頃常用しているくすりについて、その正しい飲用の仕方や新しいくすりの紹介など、実際にサンプルをもとに、わかりやすくユーモアを交えて講演していただいています。

講演対象は、町内会や老人会などの高齢者の方々が多く、どの会場も実際に飲んでくすりを持参したり、終了後に個人的に相談したりする人が多く、関心の高さを物語っています。秋田市を中心に20～30人規模の集まりですが、複数回実施している町内会もあり、身近なテーマが好評を得ています。

「庭木の手入れ勉強会」は、当会会員の菊地春夫さん（造園インストラクター1級）による、資格を生かした講座で、春と秋の年2回、県生涯学習センターを会場に行われています。

次の季節に向け、庭木の手入れや松のサンプルによる剪定の仕方、冬の庭木の雪囲いなどについて、初心者向けにわかりやすく講習しています。毎回の勉強会には50人を超える参加があり、その中には毎回参加する方も多くいます。春と秋の年2回の開催がすっかり定着しています。



これからも会の運営については、会員相互の自己啓発のための交流を図り、講演会等を開催するコーディネーターの能力を発揮しながら、生涯学習を通じて地域の活性化に貢献できればと思っています。

# 「理解を深く・活動を広く」県北地区ブロック研修

秋田県社会教育委員連絡協議会 副会長 高瀬 勇



各市町村教委単位で企画・実施される研修の機会が最近は少なくなりました。それについて「参集範囲を拡大し、学習の機会を継続したい」という要望もありました。そこで当時の大井会長からの「県内市町村教委を8ブロックに編成し、より充実した研修の場を提供したい」という提案を受け、ブロック研修の開催について、県社会教育委員連絡協議会理事会で審議、決定されました。

また研修に際しては、地理的な面を考慮して、能代・山本地区と、北秋田・上小阿仁・大館・鹿角・小坂地区の2ブロックで実施することとしました。社会教育委員、生涯学習関係役員、公民館運営委員に案内を出し、事務局は北秋田・大館・鹿角の3地区持ち回りで実施しています。毎回40名前後の方が参加しています。各年度の発表については、下の表の通りです。

年度	実践発表		講演	事務局
19	高木 豊平氏 (鹿角)	湊屋 啓二氏 (北秋田)	木下 隆氏	大館市
20	中島 喜代氏 (北秋田)	小笠 原豊氏 (大館)	沢屋 隆世氏	北秋田市
21	袴田 清枝氏 (大館)	田中 喜昭氏 (鹿角)	遠藤 元博氏	大館市
22	岩本 俊悦氏 (北秋田)	佐藤 明子氏 (小坂)	伊藤久美子氏	鹿角市
24	佐藤スグ子氏 (北秋田)	竹村 幸子氏・草階 絵美氏 (大館)	佐藤 潔氏	北秋田市

なお、23年度は協議会結成40周年記念講演(板東久美子氏)参加をもって代えています。今年度については、大館中央公民館を会場に10月17日開催予定で、大館・鹿角の実践発表、北教育事務所社会教育主事の講演を予定しています。

# 紙芝居を続けて18年

大仙市大曲生涯学習奨励員協議会 会長 鈴木 樹

平成7年に大曲生涯学習奨励員が地域の昔話や民話、伝説等の紙芝居を作り、公演を始めてから18年になります。

それまでは一人ひとりの活動でしたが、その年の4月の総会で、奨励員全体でボランティア活動をしようという提案がありました。ちょうどその頃、県では「ふるさと学習」に力を入れており、自分たちの故郷に誇りを持っていこうという気運が高まっている時でした。実際に自分たちが住んでいるこの地域・故郷を大切にしていこうという気持ちが出て来たのです。

初めは昔話、民話、伝説等があまり残っていないのではないかと心配していましたが、調べてみると沢山ありました。図書館の郷土資料室、各地域の人たちの「〇〇を語る会」の印刷物等で情報を得たあと、実際に現地で確かめながら作成しました。

紙芝居の大きさは、市販されているものの4倍の大きさで、おおよそ新聞紙を開いた大きさ(55cm×80cm)とし、厚紙で丈夫に作りました。物語の出版もできるだけ明らかにしました。小学校六年生の作文、大曲叢書、菅江真澄『月の出羽路』、大曲市の歴史散歩等いろいろな資料を基にしています。



紙芝居のそれぞれの面には、必ず仕掛けを作ったり、より立体的にしたりして面白くなるように工夫しました。ナレーションも共通語ばかりでなく、方言も大いに取り入れました。さらにハーモニカの伴奏を入れたり、鳴り物(太鼓等)を入れたりしました。また、秋田おばこ、南外小唄等の民謡も取り入れ、それにあわせて手踊りも入れます。

現在も依頼があれば、保育園や幼稚園、小学校、また老人ホームや老人クラブ、市産業まつり、公民館等に出かけて、生涯学習の一環として活動しています。



あきたの生涯学習—まなびピア21— 第45号 (平成25年9月20日)

編集・発行／秋田県生涯学習センター

(所在地) 〒010-0955 秋田市山王中島町1-1 (TEL) 018-865-1171 (FAX) 018-824-1799

まなびサポート秋田

<http://lifelong.akita-kenmin.jp/>

秋田県生涯学習センターHP

<http://www.pref.akita.lg.jp/lifelong/>

秋田県生涯学習センターE-mail

[sgcen002@mail2.pref.akita.jp](mailto:sgcen002@mail2.pref.akita.jp)

